

笹谷フルーツライン

2025. 4. 21

笹谷フルーツライン、そんなものはない。こちらが勝手に名前をつけたルートである。先週の木曜日に、幼稚園でお団子やお弁当を食べながら、お花見をした。園の桜は、まだ満開ではなかった。お天気と相談し、この日にした。お花見は楽しい。だが桜の開花具合と、満開、風がない、お天気は晴れという好条件とが巡り会うのは、なかなかむずかしい。

次の日、ようやく満開を迎えた。信夫山など、福島市の中心部では、数日前には満開になっていた。同じ福島市でも、桜の開花状況には違いがある。まだ冬のことである。自宅を出るときには雨だった。ところが、笹谷地区に近づくと、雪へと変わっていった。気温を示す車の表示が、下がっていく。桜というか、植物の気温センサーには驚かされる。

園の桜も満開だなあと思っていたところ、桃の木が芽吹いてきたことに気づいた。そうだった。桜が終わると、次は桃、梨、りんごと続く。街路樹のハナミズキも出番を迎える。果樹園地帯の彩りが、一番華やかになる時期を迎える。それはそれは見事である。

この果樹園地帯を、園児たちが歩いていく。そのルートが「笹谷フルーツライン」である。園の職員がそう呼んでいた。なるほど、ぴったりである。笹谷フルーツラインには、ガイドさんがいる。年長組の担任の先生である。歩きながら、楽しく子どもたちに教えたり、考えさせたりしている。きちんと安全指導も行っている。常に笑顔である。見事である。お花見の日にも、近くのドラッグストアにお団子を買いに、子どもたちを連れて行った。もちろん、ガイドつきである。子どもたちに語りかけるのだが、優しさに溢れている。若い先生方に、ぜひ見せたい。

子どもたちは、笹谷フルーツラインなど、園の周辺地域を歩く度に成長していく。園内での遊びも大切だが、園の外に出ることで学べることが多い。園児にとっては、ちょっとした旅のようなものだろう。旅は人を成長させる。

いつもの如く、桜はあっという間に、その出番を終えてしまった。例年のことだが、儚い。それがまたいい。見頃を迎えるタイミングとお天気とがマッチするかどうかは、わからない。その年はうまくいかなかったとしても、来年こそはと期待させてくれるのが桜の魅力でもある。

これから、笹谷フルーツラインは、どんどん色づいていく。歩きがいのある季節を迎える。そこらじゅうが、エネルギーに満ち溢れる。幼稚園に限らず、学校の子どもたちが、どんどん成長する時期である。そこには、ガイドさんを務める存在が必要である。明るく笑顔いっぱいのガイドさんたちの活躍を楽しみにしている。